

3年ぶり2度目!

動物園の「屠体給餌」の取り組みが エンリッチメント大賞の「インパクト賞」を受賞

～駆除された動物を動物園のごちそうに～

動物福祉の取り組みを行っている動物園がエンリッチメント大賞2019で「インパクト賞」を受賞しました。エンリッチメントとは、動物園の動物たちの生活の質の向上を目的に、さまざまな工夫や取り組みを進めることです。

今回は、大学や民間団体Wild meat Zooと協力し、獣害対策としてやむなく駆除されたイノシシなどを殺菌し、そのままの形を保ったまま、トラやライオンなどにエンリッチメントの一環として「屠体給餌」の取り組みが画期的で新しいと評価され、受賞につながりました。

エサであるカットされた肉とは違い、骨や皮がついた屠体を与えられた動物たちは、くわえて運んだり、皮をはいたり、より野生に近い行動が見られ、普段はあまり見られない行動も見られます。

動物園では、動物たちのより良い生活や獣害問題について考えるきっかけになるようこの取り組みを来園者に公開しています。ぜひ一度見に来てみませんか。



アムールヒョウのポンちゃん

与えられた屠体を引っ張ったり、くわえて運んだり、さまざまな行動がみられました



受賞者の皆さんとの記念撮影

下段真ん中のオレンジの服が飼育員の伴さん
全国50通の応募から3件が大賞に選ばれました

「屠体プレゼント募金」にご協力を!

屠体は殺菌処理などの経費がかかるため、普段のエサよりも高額になります。動物たちのより良い生活のために皆さんの協力をお願いします。

詳しくはこちら



★アムールヒョウにイノシシまるごとプレゼント
次回日程:3月14日(土)11:00~11:30

編集後記

▼初雪が遅かった今年の冬。もう降らないのかな?と思っていました。少しだけ大牟田の街にも雪が降りました。年齢もいい大人なので駆け回ることはいませんが、季節を感じることが出来る雪がと

ても好きです▼とは言っても冷え性の私にとって寒いのは本当に辛い!片手にカイロが手放せません。暖かい春の訪れも楽しみですが、次にやってくる冬の寒さ対策に今から頭を悩ませています(理)

押し花文化 のふるさと・おおむた

作品名 甘い香り

作者 大淵 恭子

つややかな赤い肌、甘い香り、みずみずしくて甘酸っぱい一見れば誰もがうれしくなってしまう魔法のフルーツ“いちご”。

食べるのではなく、ジャムにするのでもなく、ここでは芸術にします!押花ならぬ、「押しフルーツ」?!福岡のお姫様“あまおう”のかわいらしさと甘い香りを閉じ込めて、すてきに暮らしを彩ります。



大牟田押花の会